

第1分科会 第1班 討議内容

国士舘大学、白梅学園大学、田園調布学園大学、立教大学、日本福祉大学、大阪学院大学、追手門学院大学、株式会社ニッセイコム

討議に先立ち、各自の大学におけるポートフォリオや学生カルテの導入状況、今後の予定について情報交換を行った。その結果、当班は電子的なポートフォリオや学生カルテの導入を予定している大学で構成されていたため、導入予定大学としての課題や必要とされる取り組みを中心に検討した結果、テーマを「eポートフォリオを導入するにあたっての適用領域と活用法」とした。また、発表内容として、ポートフォリオが円滑に運営され、また活発に利用されるためには、教職や介護などの「結果を『見える化』しやすい」、また「ニーズの高い」分野から試験的に導入、その成果を全学的な導入の礎とし、活用方法として「教職実践演習」での履修カルテを紹介することとした。

まず、ポートフォリオ・学生カルテの役割について討議した。これまでに存在した LMS や CMS、大学独自のポータルサイトも、広義に捉えればポートフォリオと言えるように、その捉え方は大学や機関によって多様である。

キャリアポートフォリオを例にとった場合、大学の使命（文科省の提唱する「学士力」に沿った人材の育成）と社会の要請（経済産業省の提唱する「社会人基礎力」）は同一ではないため、学習ポートフォリオとキャリアポートフォリオの一元化や一致は難しいのではないかという意見が出た。

「学生の品質保証」をアピールするための成果物が「見える化」した形で必要とされているにも関わらず、それを判断する基準が企業側でも明確でないという現状があり、大学としても何をもって質の保証をするか定義しづらい。そのため、評価項目が明確な「教員養成」の分野や、成果物を「見える化」しやすい「介護」などの分野でのポートフォリオの導入がまずは有効ではないかと考え、その具体例を提案することとした。

具体的には平成 22 年度以降に入学する教職履修者が必修となる「教育実践演習」におけるポートフォリオである。科目に含まれる習得できる要素を★の数で表示し、各分野の学習量を「見える化」。評価ポイント＝★の数×単位数×科目の評価点とし、学生は自分の到達状況や不足している分野を学年ごとに見ることが可能であり、今後の目標を立て、教職課程分野の科目履修に励む。教員や職員は学生のポートフォリオ記入や学生自身の振り返りを見守り、助言や指導を行う。

ポートフォリオ導入時の問題点や注意すべき点については、達成点・評価基準を明確にしたシラバスの記載や評価基準の平準化、他システムとの連携と位置付け、教員・職員・学生の活用モチベーション維持の方策、責任部署や体制の整備などが挙げられた。

短い時間ではあったが、ポートフォリオ・学生カルテについて、討議を通して認識が新たなものとなった。また、「教職実践演習」におけるポートフォリオ導入の提案は、イメージや概念を越えた具体的な活用事例として発表できたのではないかと考える。今後、大学

に導入されるポートフォリオが「宝の持ち腐れ」とならないよう今回の討議経験を活かし日々の業務にあたりたい。

以 上（文責：大阪学院大学 金崎）

第1班 メンバー（参加者名簿順）

国士舘大学	伊井 克己氏
白梅学園大学	木村 哲氏
田園調布学園大学	石原 賢一氏
立教大学	藤森 将仁氏
日本福祉大学	藤井 愛子氏
大阪学院大学	金崎 暁子氏
追手門学院大学	中条 貴夫氏
株式会社ニッセイコム	篠田 恵一氏

第1班 役割分担

座長：藤森 将仁氏（立教大学）

書記：金崎 暁子氏（大阪学院大学）

発表（発表順）：中条 貴夫氏（追手門学院大学）、木村 哲氏（白梅学園大学）、篠田 恵一氏（株式会社ニッセイコム）、伊井 克己氏（国士舘大学）